



AICHI SANGYO UNIVERSITY

Graduate School of Architecture and Design

愛知産業大学 大学院 造形学研究科

Aichi Sangyo University
Graduate School of Architecture and Design

探求心と創造力を刺激する 豊かな環境で、次代への扉を開こう

「造形学」とは、新しい生活や豊かな社会を構想し、デザインする学問分野。

そのアプローチは、建築、コンテンツデザイン、

プロダクト、ICT、経営マネジメントなど、多様です。

あなたらしいアプローチで、未来を構想する力を身に付けてください。



Message



変化の激しい時代において、次代を担う人材が求められています。

愛知産業大学大学院造形学研究科は、「建築学」、「デザイン学」をコアとしながら、経営マネジメント、プロダクト、ICTなど、社会が求める分野に領域を広げ、未来を構想する力を身に付けられるよう、環境を整えています。

また、社会人も学びやすいよう、授業の体制にも工夫を施しました。

豊かな自然に囲まれた明るいキャンパスで、専門知識を深め、研究に取り組みながら、仲間とともに学生生活を楽しんでください。自らの種を信じ、自分の芽を育て、社会に出て大きな果実を実らせましょう。

学長 高橋 実



目 次

建学の精神	03
3つのポリシー	04
ASU Targets	05
愛知産業大学大学院の特徴	07
建築学専攻	11
建築学専攻教員紹介	13
デザイン学専攻	15
デザイン学専攻教員紹介	17
入試概要	19
ネット出願から合否までの流れ	23
授与する学位・大学院行事日程・授業時間	25
アクセス	26

Founding Spirit

建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち
社会に貢献できる人材を育成する



大学院設置の理念

Philosophy

〔建築学専攻〕

建築・都市の分野において、21世紀の新しい社会創造に貢献できる有為な人材の育成を目指しています。建築造形思想は、従来のスクラップ・アンド・ビルドの考えから、環境負荷の少ないサステナブル社会の構築を目指す建設・管理・修理・改修・保全・保存という考え方へ大きく移行してきています。こうした新しい社会造形の中心的な役割を担う建築・都市の分野に資する造形デザイナー養成のための教育研究の場でありたいと考えています。

〔デザイン学専攻〕

現代社会において、よりよい日常生活を創る方策を探究し、提案する人材の育成を目指しています。デザインのさまざまな分野において、生活者と使い手の立場に立ち、日常生活の中から問題を発見し解決を図る姿勢や、人々と協調しつつ統率していく能力を身に付け、プロデューサーやデザイナー等として活躍する人材の養成のための教育研究の場でありたいと考えます。

造形学研究科の 教育研究上の目的

Purpose

人間の生活に不可欠な造形活動を、生活を包み容れる建築空間を創り出す「社会造形」と、日常行為を支える用具や生活様式を提案する「生活造形」の面から深く探究し、これらの実務に携わる、高度な倫理観と知識・技能を併せもった実践的職業人の育成を目的とします。

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

Diploma Policy

[建築学専攻]

建築学専攻では、以下の点に到達している者に修士(建築学)を授与します。

- ・設計・設備・構造・施工・インテリア・マネジメントなどに関する事項を理解している。
- ・建築とそれを取り巻く環境について深く理解し、社会に必要なクリエイティブかつイノベティブな提案ができる。
- ・建築デザインと建設産業に関する多様な情報について、分析と発信をすることができる。

[デザイン学専攻]

デザイン学専攻では、以下の点に到達している者に修士(デザイン学)を授与します。

- ・情報調査・分析、構想設計、製品設計、商品設計、デザイン・マネジメントなどに関する事項を理解している。
- ・デザインとそれを取り巻く環境について深く理解し、社会に必要なクリエイティブかつイノベティブな提案ができる。
- ・デザインが関係する産業の仕事に対して多種多様な情報を分析し、高度な伝達力と指導力を持つデザイン開発リーダーとしての素養を身に付けていること。

カリキュラム・ポリシー

Curriculum Policy

[建築学専攻]

建築学専攻では、ディプロマ・ポリシーで述べた3つの目標を達成するため、以下のような教育プログラムを設けています。

- ・多様な学修背景をもつ学生に対応して、時間的・空間的に自由度の高い環境で学修をします。
- ・建築とそれを取り巻く環境について広い関心・問題意識を持たせ、複合的な領域で学びます。
- ・建築産業における実践的な専門知識と技術、社会や地域で自身の役割と責任

[デザイン学専攻]

デザイン学専攻では、ディプロマ・ポリシーで述べた3つの目標を達成するため、以下のような教育プログラムを設けています。

- ・多様な学修背景をもつ学生に対応して、時間的・空間的に自由度の高い環境で学修をします。
- ・拡張するデザイン分野とそれを取り巻く環境について広い関心・問題意識を持たせ、複合的な領域で学びます。
- ・デザインが関係する産業における実践的な専門知識と技術、社会や地域で自身の役割と責任を実感できる実務体験授業を行います。

アドミッション・ポリシー

Admission Policy

[建築学専攻]

建築学専攻では、建築およびそれを取り巻く産業において、地域や生活に積極的に貢献できる人材を育成します。そのため、社会人として基本的な素養、論理的な思考と倫理観を持ち、サステナブル建築を実現に貢献したいという意欲が求められます。したがって、推薦入学選考では学修意欲とともに大学院において研究活動を進める能力を有するかの判断をします。一般選考では大学院での学修に必要な基礎的な学力と専門知識を持っているかを判断します。

[デザイン学専攻]

デザイン学専攻では、情報サービスや生活用品およびそれらに關係する産業において、地域や生活に積極的に貢献できる人材を育成します。そのため、社会人として基本的な素養、論理的な思考と倫理観を持ち、サステナブルな社会の実現に貢献したいという意欲が求められます。したがって、推薦入学選考では学修意欲とともに大学院において研究活動を進める能力を有するかの判断をします。一般選考では大学院での学修に必要な基礎的な学力と専門知識を持っているかを判断します。

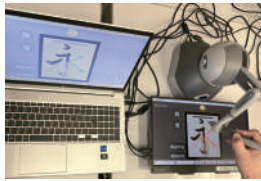
ASU Targets [4 Ways]

Way.1 SDGsと社会創造

地球を俯瞰するような大きな未来イメージの形成

持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

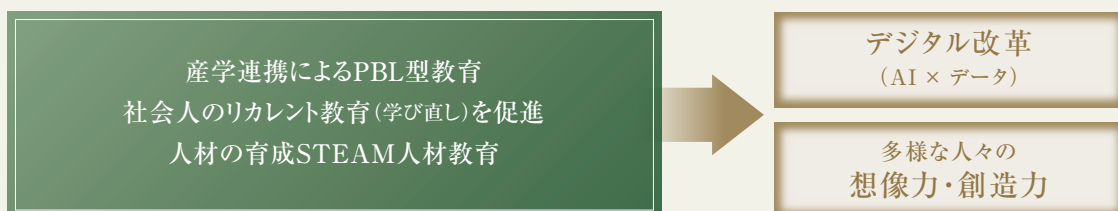
愛知産業大学大学院は、建学の精神「豊かな知性と誠実な心を持ち社会に貢献できる人材を育成する」を実現するため、研究・教育を通して、社会貢献、SDGsの実現に向けた取り組みを行っています。各領域での取り組みを紹介します。

SDGs Action	SDGs Action	SDGs Action
建築学専攻	マネジメント領域	デザイン学専攻
木材や地域素材を活かした建築づくりなどの実践を行っています。またリノベーションや省エネ化、耐震化、地域の魅力づくりなど都市の持続可能性向上に向けた研究課題にも取り組んでいます。  9 産業と地域発展の持続可能性を高める 11 持続可能な都市を築く 15 陸の豊かさも守ろう	ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効率的に活用持続可能な社会のしくみづくりをめざします。法律や政策の適性化について考える様々な職務で活躍できるレベルの高い専門職業人の養成を目指します。  8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 持続可能な都市を築く	企業との研究プロジェクトでは、鳥などの自然をテーマとした壁画や、地域の木材を使った古着回収ボックスの制作など、デザインの力を通して社会に貢献し、持続可能な仕組みづくりに取り組んでいます。  9 産業と地域発展の持続可能性を高める 11 持続可能な都市を築く 12 つくる責任 つかう責任

Way.2 Society 5.0の実現

地域・産業界と連携した地域活性化人材の育成

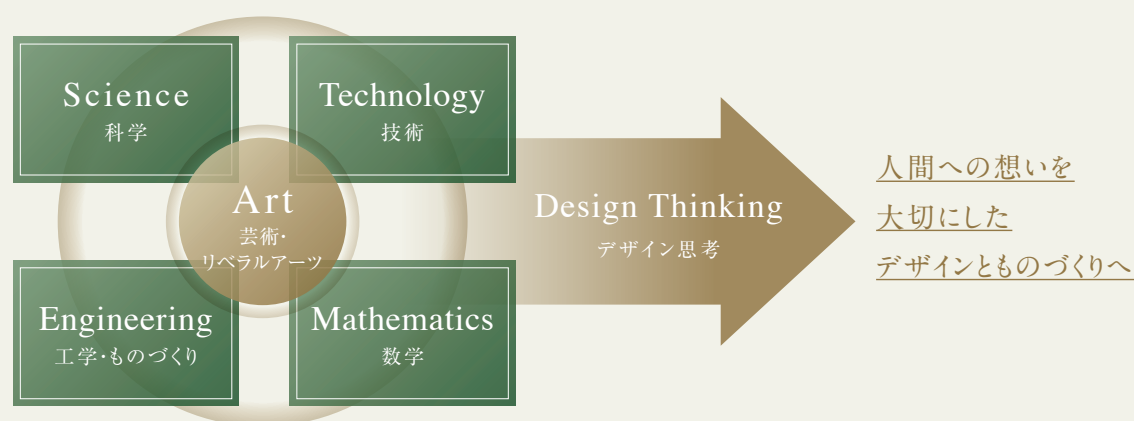
これまで人類が経験してきた、[1.0 狩猟社会]、[2.0 農耕社会]、[3.0 工業社会]、[4.0 情報社会]に続く、新たな社会[Society 5.0]が訪れようとしています。「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させた仕組みで、経済発展と社会課題の解決を可能にする人間中心の社会」です。それには、多様な人々の「想像力」と「創造力」が求められます。産業界と連携しながら、PBL型教育やリカレント教育、地域活性化人材の育成など、[Society 5.0]を担う人材の育成を行います。



Way.3 STEAM人材教育

先端技術とリベラルアーツの融合で育むデザイン思考

主体とする専門分野の力を身につけるとともに、科学、技術、工学、数学、アートの各分野の統合的な学びに配慮した学びを目指します。「情報と未来デザイン」、「建築と地域づくり」、「造形演習」、「造形理論」などの科目は、STEAM人材の育成をめざして構成しました。あわせて、問題発見力、課題解決力、協働力、挑戦力・実践力を涵養し、未来を構想、変革できるSTEAM人材の育成を目標とします。



Way.4 LPS (TPS) ものづくり

構想を具現化・持続化させるためのしくみづくり

デザインとものづくりに求められる、仕組みづくりの知恵を「造形理論」などで、学びます。リーン生産方式(トヨタ自動車の生産方式)は、自動化(自動化ではない)やジャスト・イン・タイムを軸に構成されています。これは、ものづくりにとどまらず、組織づくりや様々な仕組みづくりに役立ててすることができます。企業との連携を通じた授業を展開します。

1 ムダ取り

作業の中には「ムダ」を排除し、
より多くの付加価値を生み出す作業に集中。

2 改善 (KAIZEN)

工程の問題ややりにくさを、
常に「もっと良い方法はないか?」を考え続ける。

3 見える化

問題を周囲に見えるようにし、その上で
関係者全員が知恵を出し合って解決を目指す。

4 なぜなぜ分析

問題が起きた際、誰かの責任追及ではなく、
原因追究・真因追求することが大切。

愛知産業大学大学院の特徴

複合的な専門領域の学びが、社会での即戦力、強みにつながります

- Style.1

建築もしくはデザインの専門領域に加え、マネージメントを学ぶ
- Style.2

経営マネージメントに加え、建築もしくはデザインを学ぶ

次代を拓く、魅力的な共通科目群

「情報と未来デザイン」

これからの社会に必要な不可欠な情報学と未来を切り開くために有用なデザイン思考を学びます。画像生成AI、ロボット、SDGsなどの事例研究を通して、知識の涵養と問題解決力の向上を図ります。

「建築と地域づくり」

地域を魅力的で持続可能なものとするために、建築が果たす役割は大きいと言えます。建築をつくるまでのプロセス、建築の運営方法とコンテンツ、地域に根ざした素材やつくり方など、多様な観点から建築のあり方を検討します。

「造形演習」

ものづくりの構想力と実践力を高めることを目的として、木工などに取り組みます。アイデアを具現化するための手法と改善、問題の見える化と原因分析など、構想を具現化・持続化させるためのしくみづくりを考えます。

「マーケティング論」

マーケティングの理論と実践の両面からアプローチし、経営課題の分析力を身につけます。

「経営戦略論」

経営戦略の理論と実践の両面からアプローチし、経営課題の分析力を身につけます。

「地域マネジメント論」

地域振興政策や地域産業の育成の視点からアプローチし、経営課題の分析力を身につけます。



画像生成 AI を用いて描いた未来図
(大学院生作品)



藤川宿 米屋改修プロジェクト



バーチャルレビューでの、プレゼンテーション



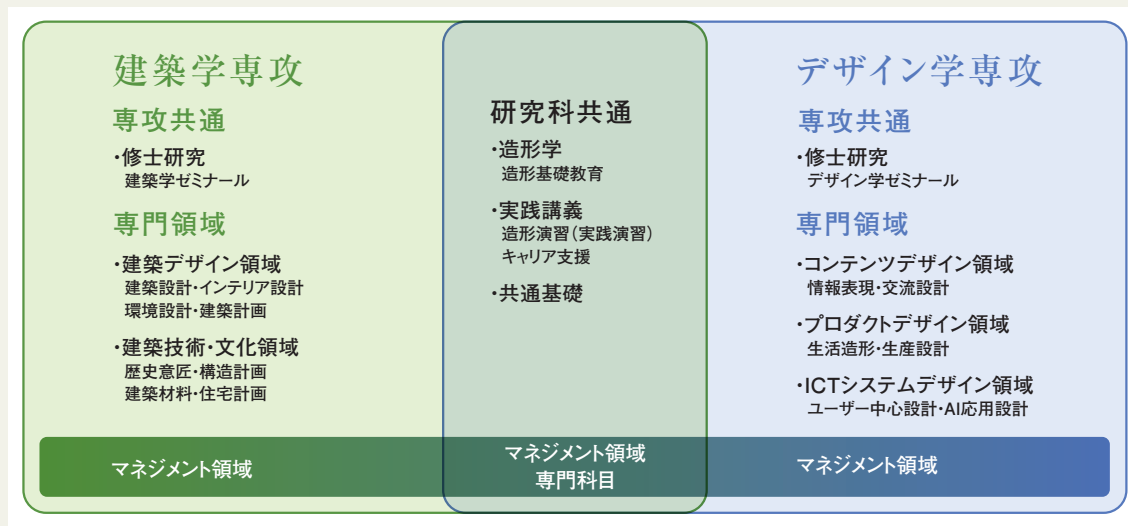
ファリシテーションロボットの会話実験

研究科共通科目

造形学	1	春	造形理論A
	1	秋	造形理論B
	1	秋	造形演習
	2	春	情報と未来デザイン
	2	秋	建築と地域づくり
キャリア形成	1	春	インターンシップ
共通基礎	1	春	建築学特別講義
	1	秋	デザイン学特別講義
	2	春	マネジメント学特別講義
マネジメント	1	春	マーケティング論
	1	秋	経営戦略論
	2	春	地域マネジメント論

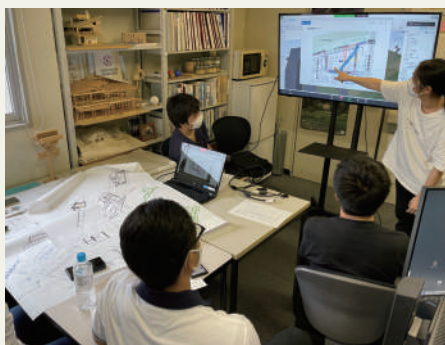
研究科共通科目を軸とした、各専攻・領域の学修内容

建築もしくはデザインの専門領域に加え、マネージメントを学ぶスタイル、経営マネージメントを軸としながら、建築もしくはデザインを学ぶスタイルなどを想定しています。複合的な専門の学びが、社会での即戦力、強みにつながります。



研究や指導の特色

実務、実践的な研究に重きを置き、グループ指導やマンツーマン指導を行っています。専任教員以外にも、各分野での見識をもつ専門家を講師に招聘し、産学連携 共同研究や協同活動を行っています。



岡崎市まちづくりプロジェクト



松応寺版土堀再生プロジェクト

インターンシップ

企業や行政、設計事務所などでのインターンシップを正規科目としており、所定の研修を実施することで単位認定されます。

各自のバックボーンや知識・技術をふまえ、実務に取り組むことで、実践力や適応能力を高めます。



キャリアサポート

1.進路・就職相談

就職担当職員と進路の検討から就職活動の進め方まで気軽に相談することができます。また、専門の教員から進路についての相談や助言を受けることができます。

2.就職支援システム

数多くの求人票、本学への来訪企業求人などを対象に、企業の検討と絞り込みを行うことができます。

3.企業研究会

本学の学生への採用意向のある企業が一同に会する「企業研究会」を学内で実施しています。

社会人にも学びやすい様々な工夫

リカレント教育、リスキリングの必要性や有効性に関心がもたれています。社会人として大学院の学修に取り組むことには様々な意義があり、業務や生活における課題を研究テーマとしたり、修了後の業務を想定した課題に取り組むなど、リフレッシュとキャリアアップにつなげることが可能です。

本学大学院では、「遠隔」と「対面」を組み合わせた学修システム、長期・早期履修制度、一般教育訓練給付指定講座の指定など、社会人の学びやすさへの工夫と対応がなされています。日常業務やプライベートと並行しながら、自分らしい学びを実現してください。

「遠隔」と「対面」での学び、 それぞれのメリットを組み合わせた学修スタイル



ゼミナール

学生と教員が日程や授業形式を調整して実施します。



オンデマンド授業

UNIPA（オンライン教育システム）や Teamsなどを用いて行います。

ハイブリッド授業

一般学生は対面授業ですが、社会人学生はオンデマンド授業を選択することが可能です。

ブレンド授業

オンデマンド授業7回、対面授業8回（夏期・冬期集中講義）、を組み合わせで実施します。



対面授業

キャンパスにて行います。交流やディスカッションも刺激になります。

仕事や家事との両立も可能な学び方

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
				1限目	2限目		3限目	4限目		5限目							
月	起床	朝食・準備	通勤	仕事							通勤	夕食・家事など	オンデマンド授業	自主学習 修士研究			就寝
火	起床	朝食・準備	通学	研究室で 修士研究	オンデマンド 授業	昼食	ゼミナール	対面授業	通学	夕食・家事	自主学習 修士研究	プライベート					就寝
水	起床	朝食・準備	通勤	仕事							通勤	夕食・家事など	自主学習 修士研究	プライベート			就寝
木	起床	朝食・準備	通勤	仕事							通勤	夕食・家事など	オンデマンド 授業	自主学習 修士研究			就寝
金	起床	朝食・準備	通勤	仕事							通勤	夕食・家事など	プライベート				就寝
土	起床	朝食・準備	通勤	仕事							通勤	夕食・家事など	プライベート				就寝
日	就寝	起床	朝食	プライベート	自主学習 修士研究	昼食	プライベート					夕食・家事など	プライベート				就寝

※修士1年生のBさんの場合:週休2日(火曜日+日曜日)で、対面授業(含、ゼミナール)を2科目とオンデマンド授業を3科目履修

様々な学び方で修了を目指すことができます

ライフスタイルや仕事の状況などに応じて、長期もしくは短期での修了を目指すことができます。いずれの制度も、学納金総額に大きな違いを設けていないことから、無理のない進め方で学修を続けることができます。4月のみでなく、10月入学の制度もあります。

長期履修制度

社会人を対象として、標準2年の修学期間を、予め3年間あるいは4年間と設定して履修する制度です。

	標準	長期履修制度		備考
	2年制	3年制	4年制	
入試形態	_____	出願時に選択		委員会での入試区分
受験資格	_____	社会人のみ		
修業年限の上限	4年	5年	6年	学則改正済
休学可能期間	2年間			
学費／年度	750,000円	500,000円	375,000円	授業料、教育充実費、実習費の合計
	_____	2/3倍	1/2倍	

早期修了制度

●早期履修制度:社会人を対象として科目等履修などと前倒し履修により30単位以上を修得している場合に1年半で学位審査等を受けることが出来る制度です。

(a) 春学期入学

入学前	令和7年度		令和8年度	
春/秋	春学期	秋学期	春学期	秋学期
科目等履修	M1		M2	
	↑ 入学	↑ 早期修了判定申請	↑ 早期修了判定	

(b) 秋学期入学

入学前	令和7年度		令和8年度	
春/秋	春学期	秋学期	春学期	秋学期
科目等履修	科目等履修	M1	M2	
	↑ 入学	↑ 早期修了判定申請	早期修了判定	↑

一般教育訓練給付指定講座の指定

雇用保険法に規定する一般教育訓練の指定を受けており、要件を満たす方には修了後に教育訓練給付金が支給されます。

建築学専攻の教育研究領域

今後、人口減少、少子高齢化の時代を迎えるに当たり、地域の構想力がますます求められます。これからの「地域づくり」は、単に行政の仕事ということだけではなく、新たなビジネスや魅力的な地域づくり方など、多様な視点で、様々な立場の人が参加して行っていく必要があります。それには、単体の建築を考えるだけではなく、エリアマネジメントや地域ブランディングといった視点も重要です。林業や地場産業など、地域の産業や技術を理解し、連携した建築のあり方も考えられそうです。一方、AIなど情報技術の進化をいかした建築づくりや地域のあり方も模索できそうです。耐震性の強化や素材の開発、環境技術を活かした建築も必要です。これからの時代に求められる、『地域構想力』を有した人材の育成をめざします。

〔建築デザイン領域〕 暮らしの空間や社会の在り方をデザインし提案します

- 建築設計
- 建築計画
- 環境設計
- インテリア設計

建築デザインでは、内部と外部、さらにその周辺環境にも配慮して創造することが求められます。内部では、利用する人々の住まい方や使われ方に注目し、快適性や利便性に優れた空間を提案することが求められ、外部や周辺環境ではその建物が都市に与える影響へ考慮が必要となります。持続可能な社会にふさわしい建築を目指して、インテリア・建築・都市の生産・維持管理・再生に十分配慮した設計能力と課題解決力を育成します。

〔建築技術・文化領域〕 暮らしや社会生活で活用できる新たな技術・価値・しぐみを提案します

- 歴史意匠
- 構造計画
- 建築材料

建築物は、社会が求める「安全」かつ「安心」を満たすのに最適な構造・材料で計画・設計されます。建築イノベーション領域では、過去から現在、そして未来を見据えて、構造や材料に関する知識と技術を学修し、社会に必要なイノベーション的な発想と能力、工学的センスを身につけます。

〔マネジメント領域〕

マネジメントは「経営管理」などの意味を持ち、組織目標の達成を目指すことをいいます。高度化する産業社会・地域社会では、分野を問わず高度なマネジメント能力が求められるようになってきました。マネジメント領域では、ファイナンスやマーケティング、組織デザイン、人的資源管理、経営戦略、イノベーション等について、理論と実践との融合という見地からアプローチしていきます。ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効率的に活用し、持続可能な組織や地域について考えます。

研究科共通科目

造形学

- 造形理論A
- 造形理論B
- 造形演習
- 情報と未来デザイン
- 建築と地域づくり

キャリア形成

- インターンシップ

共通基礎

- 建築学特別講義
- デザイン学特別講義
- マネジメント学特別講義

マネジメント

- マーケティング論
- 経営戦略論
- 地域マネジメント論

建築学専攻専門科目

建築デザイン

- 建築デザイン論
- 環境デザイン論
- インテリアデザイン論

建築技術・文化

- 材料設計論
- 構造設計論
- 木造建築論

設計

- 設計演習A
- 設計演習B

ゼミナール

- 建築学ゼミナールA
- 建築学ゼミナールB
- 建築学ゼミナールC
- 建築学ゼミナールD
- 建築学ゼミナールE
- 建築学ゼミナールF

開講科目と履修モデル

	学年	学期	科目名	必修/選択	授業形式	授業	授業形態	単位数	一般・留学生			社会人		
									①	②	③	①	②	③
研究科 共通科目	造形学	1 春	造形理論A	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形理論B	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形演習	選択	演習	週間	対面	2	●	●				
		2 春	情報と未来デザイン	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●		●	●
		2 秋	建築と地域づくり	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●		●	●	●
	キャリア形成	1 春	インターンシップ	選択	演習	集中	対面	2			●			
		1 春	建築学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2	●	●		●	●	●
	共通基礎	1 秋	デザイン学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2		●	●	●		●
		2 春	マネジメント学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2			●		●	●
		1 春	マーケティング論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●			●
	マネジメント	1 秋	経営戦略論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●			●
		2 春	地域マネジメント論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●		●	●
建築学専攻 専門科目	ゼミナール	1 春	建築学ゼミナールA	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		1 秋	建築学ゼミナールB	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		2 春	建築学ゼミナールC	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		2 春	建築学ゼミナールD	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	
		2 秋	建築学ゼミナールE	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		2 秋	建築学ゼミナールF	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
	設計	1 春	設計演習A	選択	演習	集中	ブレンド	2	●	●		●		
		1 秋	設計演習B	選択	演習	集中	ブレンド	2	●			●		
	建築	1 春	建築デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●			●		
		1 秋	環境デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2						
		2 春	インテリアデザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●			●		
		1 春	構造設計論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●				
		1 秋	材料設計論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●			●	
		2 春	木造建築論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2					●	

※①建築デザイン領域 ②建築技術・文化領域 ③マネジメント領域

※表に示す●は履修モデルであり、その他の科目も選択可能です。

履修スタイル

共通科目、専門科目の中から、自身の専門領域やキャリア形成の観点から、科目を選択することができます。建築領域、マネジメント領域など、軸をもって履修登録することも可能です。社会人は、ハイブリッドやオンデマンドのスタイルを中心に学ぶこともできます。

修士研究

研究テーマは、社会的背景、自身の興味や問題意識、担当教員の強みなどから決定をしていきます。入学前に想定したテーマから、進学後に変更することは構いません。総合的な観点から、魅力的なテーマを見つけ、探求してください。

修士研究例

- 西洋近世の美術作品および言説に関する研究
- 地域の木と土を活かした住宅の現境性能評価
- 建築・都市空間のイメージと構成手法
- 地域を変えるデザインの研究
- エリア「境界」の生成に関する研究
- 景観計画における色彩基準と店舗ファサードデザイン
- 中東・イスラーム地域における都市構成
- 防災意識の経年変化を考慮した地震対策
- 住宅材料の意匠価値
- 昭和期日本における木造建築論の展開と変質
- 触力覚を用いた人とロボット間協調の高安定・高品質化
- 金融経済教育
- リレーションシップ・マーケティングの発展と領域拡大
- 日本における中小企業会計基準の成り立ちと諸問題

一般学生の学修スケジュールのイメージ

※修士1年生のAさん(建築デザイン領域で建築設計などを主に学びたい学生)の場合

時間	月	火	水	木	金
1 9:30~11:00					
2 11:10~12:40		■建築学特別講義(オンデマンド授業)			
3 13:40~15:10	■建築デザイン論(対面授業)				■建築学ゼミナール(対面授業)
4 15:20~16:50		■造形理論A(対面授業)			

夏期集中講義:設計演習A(ブレンド授業)



研究科

杉山 奈生子 教授

デザイン学専攻長



[研究分野]

美学・美術史学(主に近世フランス)

[主な担当科目]

造形理論A、造形理論B、情報と未来デザイン

[研究指導テーマ(例)]

- 西洋近世の美術作品および言説に関する研究
- デザイン概念の形成と展開に関する歴史的研究
- 東洋と西洋の造形感覚に関する比較研究

建築デザイン領域

宇野 勇治 教授

建築学科長



[研究分野]

建築環境デザイン

[主な担当科目]

環境デザイン論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 地域の木と土を活かした住宅の現境性能評価
- 自然エネルギーを活用した建築のデザイン手法
- 伝統建築技術を活かした景観再生に関する研究

建築デザイン領域

高木 清江 教授



[研究分野]

建築計画

[主な担当科目]

建築デザイン論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 建築・都市空間のイメージと構成手法
- 公園等の利用を高める空間構成
- 子どもにやさしいまちをつくる施策と事業

建築デザイン領域

宮崎 晋一 教授



[研究分野]

建築設計、建築計画

[主な担当科目]

建築と地域づくり、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 地域を変えるデザインの研究
- コミュニティを創生するエリアリノベーション
- 地域産材を活用したプロダクトデザイン

建築デザイン領域

栗原 健太郎 准教授



[研究分野]

建築設計、建築における兼用性に関する研究
- 構造・設備・空間・家具の統合

[主な担当科目]

設計演習、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- エリア「境界」の生成に関する研究
- 連棟形式の可能性
- 建築の兼用性

建築デザイン領域

寺嶋 利治 准教授



[研究分野]

建築設計、インテリアデザイン論

[主な担当科目]

インテリアデザイン論、建築ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 景観計画における色彩基準と店舗ファサードデザイン変更の実態
- 非居室空間の空間構成と活動
- 複合建築における共用部の空間構成と活動

建築技術・文化領域

新井 勇治 教授

造形学研究科長



[研究分野]

イスラム建築史・都市史、建築史、建築意匠

[主な担当科目]

木造建築論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 中東・イスラム地域における都市構成
- 西アジアにおける古代から現代までに至る住居建築と住まい方
- 建築史・都市史および建築文化

建築技術・文化領域

小椋 紀行 教授

建築学専攻長



[研究分野]

鉄筋コンクリート構造、建築構造教育

[主な担当科目]

構造設計論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 防災意識の経年変化を考慮した地震対策
- 体験型建築構造教材の効果
- RC部材の破壊過程の視覚化

建築技術・文化領域

今西 貴美 教授



〔研究分野〕

インテリア・建築材料、住宅設計

〔主な担当科目〕

材料設計論、建築学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 住宅材料の意匠価値
- 空間意匠計画の手法
- 機能的な行為空間の分析

建築技術・文化領域

竹内 孝治 准教授



〔研究分野〕

住宅計画史、住宅産業論、ハウジング

〔主な担当科目〕

建築学特別講義、建築学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 昭和期日本における木造建築論の展開と変質
- 近現代における住宅産業の発展と変容
- 戦時期日本における住宅計画の理論と思想

マネジメント領域

石橋 豊 教授

経営学部長



〔研究分野〕

触力覚を用いた人とロボット間協調の高安定・高品質化、多感覚通信品質制御に関する研究、多感覚メタバースを用いた歩行支援技術の研究

〔主な担当科目〕

マネジメント学特別講義、建築学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 触力覚を用いた人とロボット間協調の高安定・高品質化
- 多感覚通信品質制御に関する研究
- 多感覚メタバースを用いた歩行支援技術の研究開発

マネジメント領域

奥田 真之 教授

総合経営学科長



〔研究分野〕

金融論、金融経済教育、中小企業の経営戦略

〔主な担当科目〕

経営戦略論、建築学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 金融経済教育
- 地域経済における金融機関の役割

マネジメント領域

山崎 方義 教授



〔研究分野〕

広告、マーケティング、マーケティング・コミュニケーション、コーポレート・コミュニケーション

〔主な担当科目〕

マーケティング論、建築学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- リレーションシップ・マーケティングの発展と領域拡大
- ステークホルダー・マネジメントにおけるコミュニケーション活動
- SDGsとソーシャル・コミュニケーションに関する研究

マネジメント領域

鶴見 正史 教授



〔研究分野〕

中小企業の会計基準、会計構造論

〔主な担当科目〕

地域マネジメント論、建築学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 日本における中小企業会計基準の成り立ちと諸問題
- キャッシュ・フロー計算書と簿記の会計構造
- 明治以降における簿記の史的研究



土を活かした建築における
温熱環境の実験棟実験



山王のオフィス(栗原准教授設計)



中野市児童発達支援センター
(寺嶋准教授設計)

デザイン学専攻の教育研究領域

デザイン学専攻では、各共通科目や専攻領域科目において、専門に関する基礎から応用まで幅広い知識とスキルを習得し、ゼミナールにおいて、修士研究の計画から成果発表まで指導教員によるきめ細やかな指導を受けることができます。修了後は、情報やデザインの専門性を活かして、産業界での活躍が期待されます（就職内定実績トヨタ自動車、シーメンス、IKEA、吉利汽車（ジーリー）ほか）。

コンテンツ デザイン領域

人間が持つ意思疎通への基本的欲求は、その“思い”の表現と伝達の手法を発達させ、実に多種多様なメディアが利用されてきました。コンテンツ分野では、紙メディアから電子メディアが主流となり、表現手法や伝達手段が多様になっています。多量の情報発信が個人でも可能になり、誰でも様々な情報を得ることが可能となるにつれて、情報伝達デザインでは倫理問題が重要となっています。そこで、多種多様なメディアの活用と最新の伝達デバイスへの適用を研究し、新たな情報デザインの表現や適用の提案ができる先導的職業人を養成します。

プロダクト デザイン領域

身近な生活で使用される日用品、道具、遊具、乗り物、家具等を、人間の身体や生活習慣との関係や、それらの置かれる空間や環境との関係など様々な視点で問い直し、より使いやすく、楽しく、美しく、快適でかつ持続可能なモノや空間さらには、システムとして提案していきます。そして、その提案を企業や社会に提示できる実践的職業人として育成します。

ICTシステム デザイン領域

社会や生活の中でAI[人工知能]技術が活用され始めています。サステナブルな社会の実現にはAIを用いたサービスや製品の創造が求められている時代であって、単にデザイン結果を提案するだけでなく、ユーザーに寄り添って成長・進化するデザインのあり方を研究します。デザインへのAI技術の適用やIoTへの活用など、産業界とユーザーを本当の意味で結びつける新しい領域の先導的職業人を育成します。

マネジメント領域

マネジメントは「経営管理」などの意味を持ち、組織目標の達成を目指すことをいいます。高度化する産業社会では、分野を問わず高度なマネジメント能力が求められるようになってきました。マネジメント領域では、ファイナンスやマーケティング、組織デザイン、人的資源管理、経営戦略、イノベーション等について、理論と実践との融合という見地からアプローチしていきます。ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効率的に活用し、成果を高める実務的なセンスと能力を高めることで、様々な職務で活躍できるレベルの高い専門職業人の養成を目指します。

研究科共通科目

造形学

- 造形理論A
- 造形理論B
- 造形演習
- 情報と未来デザイン
- 建築と地域づくり

キャリア形成

- インターンシップ

共通基礎

- 建築学特別講義
- デザイン学特別講義
- マネジメント学特別講義

マネジメント

- マーケティング論
- 経営戦略論
- 地域マネジメント論

デザイン学専攻専門科目

コンテンツデザイン

- 視覚デザイン論
- 情報デザイン論

プロダクトデザイン

- 製品デザイン論
- 空間デザイン論

ICTシステムデザイン

- 情報システムデザイン論
- 先進システムデザイン論

デザイン

- デザイン演習A
- デザイン演習B

ゼミナール

- デザイン学ゼミナールA
- デザイン学ゼミナールB
- デザイン学ゼミナールC
- デザイン学ゼミナールD
- デザイン学ゼミナールE
- デザイン学ゼミナールF

開講科目と履修モデル

	学年	学期	科目名	必修/選択	授業形式	授業	授業形態	単位数	一般・留学生				社会人			
									①	②	③	④	①	②	③	④
研究科 共通科目	造形学	1 春	造形理論A	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形理論B	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形演習	選択	演習	週間	対面	2	●	●						
		2 春	情報と未来デザイン	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●	●		●	●	●
		2 秋	建築と地域づくり	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●			●	●	●	●
	キャリア形成	1 春	インターンシップ	選択	演習	集中	対面	2			●	●				
		1 春	建築学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2	●	●			●	●	●	●
	共通基礎	1 秋	デザイン学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2		●	●	●	●			●
		2 春	マネジメント学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2			●	●			●	●
	マネジメント	1 春	マーケティング論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2				●				●
		1 秋	経営戦略論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2				●				●
		2 春	地域マネジメント論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●	●		●	●	●
デザイン専攻 専門科目	ゼミナール	1 春	デザイン学ゼミナールA	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		1 秋	デザイン学ゼミナールB	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 春	デザイン学ゼミナールC	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 春	デザイン学ゼミナールD	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	
		2 秋	デザイン学ゼミナールE	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 秋	デザイン学ゼミナールF	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	デザイン	1 春	デザイン演習A	選択	演習	集中	ブレンド	2	●	●			●			
		1 秋	デザイン演習B	選択	演習	集中	ブレンド	2	●				●			
	コンテンツ デザイン	1 春	視覚デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●				●			
		1 秋	情報デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●							
	プロダクト デザイン	1 春	製品デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●			●	●		
		1 秋	空間デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●				●		
	ICTシステム デザイン	1 春	情報システムデザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●				●	
		1 秋	先進システムデザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●				●	

※①コンテンツデザイン領域 ②プロダクトデザイン領域 ③ICTシステムデザイン領域 ④マネジメント領域

※表に示す●は履修モデルであり、その他の科目も選択可能です。

履修スタイル

共通科目、専門科目の中から、自身の専門領域やキャリア形成の観点から、科目を選択することができます。デザイン領域、マネジメント領域など軸を持って履修登録することも可能です。社会人は、ハイブリットやオンデマンドのスタイルを中心に学ぶこともできます。

修士研究

研究テーマは、社会的背景、自身の興味や問題意識、担当教員の研究領域などから決定していきます。入学前に想定したテーマから、進学後に変更することは構いません。総合的な観点から魅力的なテーマを見つけ、探求してください。

修士研究例

- デジタルサイネージと印刷メディアによるクロスメディア展開
- 擬人化キャラクターの制作とエージェントとしての活用
- 「ふるまい」を表現した文字アニメーションの制作
- 現代の個食環境に合わせた食器の提案
- 常夜灯など伝統に基づく道路照明器具のデザイン研究
- 子供を育むための住空間の有効利用
- 外国人児童の教育を目的とする童話アニメーション制作
- ストレス解消音楽のCDパッケージデザイン
- 観光名所案内のCG制作
- 遊具メーカーでの新しい遊具の開発・提案
- ゲームイベント展示物の3Dモデルデータの制作
- 調理の作業性とインテリア性を両立できるキッチン収納開発

一般学生の学修スケジュールのイメージ

※修士1年生のAさん(プロダクトデザイン領域で製品設計などを主に学びたい学生)の場合

時間	月	火	水	木	金
1 9:30~11:00					
2 11:10~12:40		■デザイン学特別講義(オンデマンド授業)			
3 13:40~15:10	■空間デザイン論(対面授業)				■デザイン学ゼミナール(対面授業)
4 15:20~16:50		■造形理論B(対面授業)			

冬期集中講義:デザイン演習B(ブレンド授業)



研究科

杉山 奈生子 教授
デザイン学専攻長



〔研究分野〕

美学・美術史学(主に近世フランス)

〔主な担当科目〕

造形理論A、造形理論B、情報と未来デザイン

〔研究指導テーマ(例)〕

- 西洋近世の美術作品および言説に関する研究
- デザイン概念の形成と展開に関する歴史的研究
- 東洋と西洋の造形感覚に関する比較研究

コンテンツデザイン領域

岩田 政巳 准教授



〔研究分野〕

平面及び立体作品制作、造形基礎教育

〔主な担当科目〕

デザイン演習A、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 平面表現作品の制作研究
- 平面表現技法における材料研究
- インスタレーション表現研究

プロダクトデザイン領域

木村 光 教授



〔研究分野〕

プロダクトデザイン、インダストリアルデザイン

〔主な担当科目〕

製品デザイン論、デザイン演習B、デザイン学特別講義、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- スマートモビリティにおける快適性の研究
- デザインにおける発想の手法に関する研究
- 業務プロセスと商品化デザイン計画に関する研究

ICTシステムデザイン領域

西村 雅史 教授
スマートデザイン学科長



〔研究分野〕

知能情報学、健康・医療情報学

〔主な担当科目〕

情報システムデザイン論、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- センサー情報処理応用システムのデザインと評価
- 音情報に基づく人間の機能拡張に関する研究
- 高齢者・障害者支援技術に関する研究

ICTシステムデザイン領域

大島 直樹 准教授



〔研究分野〕

Human-Agent Interaction/ Human-Robot Interaction

〔主な担当科目〕

情報システムデザイン論、デザイン学特別講義、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 認知科学の知見に基づき設計されたコミュニケーションロボットの構築
- 身体的なコミュニケーションへの参加を重視したアバターロボットの開発
- ヒューマンコミュニケーションの分析とその応用に関する研究

コンテンツデザイン領域

宇井 朗浩 教授



〔研究分野〕

映像論、ビデオアート、映像制作

〔主な担当科目〕

デザイン学特別講義、情報デザイン論、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- ノンリニア技術を使った自主制作映像の制作法の研究
- キャリア理論を援用した映像のストーリー制作
- ドキュメンタリーと地域性の関係

コンテンツデザイン領域

松浦 主税 准教授



〔研究分野〕

岩絵具を使った絵画制作

〔主な担当科目〕

視覚デザイン論、デザイン演習A、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 風景表現とデザインコンテンツへの活用に関する研究
- 映像用背景画の表現とその技法に関する研究
- デザインにおける平面的空間表現の利用に関する研究

プロダクトデザイン領域

森 理恵 准教授



〔研究分野〕

プロダクトデザイン、インテリアデザイン

〔主な担当科目〕

空間デザイン論、情報と未来デザイン、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- インクルーシブデザインによる商品開発
- 社会課題解決に向けたデザイン
- 生活用品および家具の普遍的形態に関する研究

ICTシステムデザイン領域

林 羊蘭代 教授



〔研究分野〕

西洋美術史(ルネサンス工芸史)、
カラーユニバーサルデザイン

〔主な担当科目〕

デザイン学特別講義、情報と未来デザイン、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 装飾美術・工芸の様式論的研究
- 「イタリア・デザイン」概念の形成と展開に関する研究
- カラーユニバーサルデザイン普及・啓発教材の開発

ICTシステムデザイン領域

林 里奈 准教授



〔研究分野〕

感性ロボティクス

〔主な担当科目〕

先進システムデザイン論、情報と未来デザイン、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 社会課題を解決するロボットデザインと評価
- 生理指標に基づく心理状態推定手法の開発
- 癒し/かわいさを引き出す要素の検討

ICTシステムデザイン領域

廣瀬 伸行 講師



〔研究分野〕

学習支援、CGの応用

〔主な担当科目〕

先進システムデザイン論、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- AI・ICTを用いた課題解決の研究
- 学習支援システムの研究
- AI・キャラクターを用いたコミュニケーションの確立に関する研究

ICTシステムデザイン領域

齋 進 講師



〔研究分野〕

通信工学、情報学

〔主な担当科目〕

インターンシップ、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- コグニティブ(認知)無線に関する研究
- コンピューターネットワークに関する研究
- 知的環境認識型ネットワーク

マネジメント領域

石橋 豊 教授

経営学部長



〔研究分野〕

触力覚を用いた人とロボット間協調の高精度・高品質化、多感覚通信品質制御に関する研究、多感覚メタバースを用いた歩行支援技術の研究

〔主な担当科目〕

マネジメント学特別講義、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 触力覚を用いた人とロボット間協調の高精度・高品質化
- 多感覚通信品質制御に関する研究
- 多感覚メタバースを用いた歩行支援技術の研究開発

マネジメント領域

奥田 真之 教授



〔研究分野〕

金融論、金融経済教育、中小企業の経営戦略

〔主な担当科目〕

経営戦略論、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 金融経済教育
- 地域経済における金融機関の役割

マネジメント領域

山崎 方義 教授



〔研究分野〕

広告、マーケティング、マーケティング・コミュニケーション、コーポレート・コミュニケーション

〔主な担当科目〕

マーケティング論、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- リレーションシップ・マーケティングの発展と領域拡大
- ステークホルダー・マネジメントにおけるコミュニケーション活動
- SDGsとソーシャル・コミュニケーションに関する研究

マネジメント領域

鶴見 正史 教授



〔研究分野〕

中小企業の会計基準、会計構造論

〔主な担当科目〕

地域マネジメント論、デザイン学ゼミナール

〔研究指導テーマ(例)〕

- 日本における中小企業会計基準の成り立ちと諸問題
- キャッシュ・フロー計算書と簿記の会計構造
- 明治以降における簿記の歴史的研究



授与する学位

研究科・専攻	学位名称
造形学研究科建築学専攻	修士(建築学)
造形学研究科デザイン学専攻	修士(デザイン学)

大学院行事日程

	春学期入学	秋学期入学
3月	● 留学生ガイダンス(M2S)	● 主査・副査報告書提出(M2F)
4月	共通	
	● 健康診断等(M1S,M2S) ● 春学期授業開始(M1,M2) ● 春学期ガイダンス(M1F,M2) ● 春学期履修登録(M1F,M2)	
	● 入学式(M1S) ● 新入生説明会(M1S) ● 指導教員報告書提出(M1S) ● 履修登録(M1,M2)	
8月		● 修士研究概要提出(M2F) ● 修士研究提出(M2F) ● 修士研究中間成果報告書提出(M1F) ● 修士研究審査会(M2F) ● 修士研究中間成果報告会(M1F)
9月	共通	
	● 秋学期ガイダンス(M1S,M2) ● 秋学期履修登録(M1S,M2)	
	● 主査・副査報告書提出(M2S)	● 学位授与式(M2F) ● 留学生ガイダンス(M2F)
10月	共通	
	● 秋学期授業開始(M1,M2) ● 秋学期入学式(M1F)	
		● 新入生説明会等(M1F) ● 指導教員報告書提出(M1F)
1月	● 修士研究概要提出(M2S)	
2月	● 修士研究提出(M2S) ● 修士研究中間成果報告書提出(M1S) ● 修士研究審査会(M2S) ● 修士研究中間成果報告会(M1S)	
3月	● 学位記授与式(M2S)	

※M1S：修士1年(春学期入学) M2S：修士2年(春学期入学)

※M1F：修士1年(秋学期入学) M2F：修士2年(秋学期入学)

授業時間

月曜日から金曜日まで下記の時間帯で行われています。

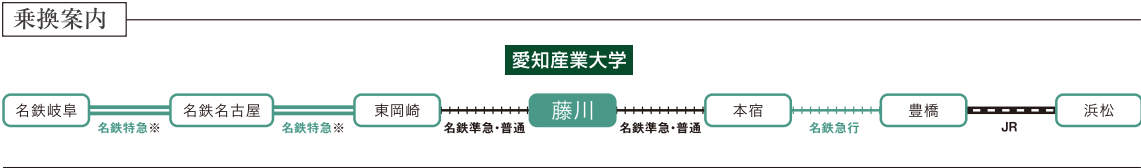
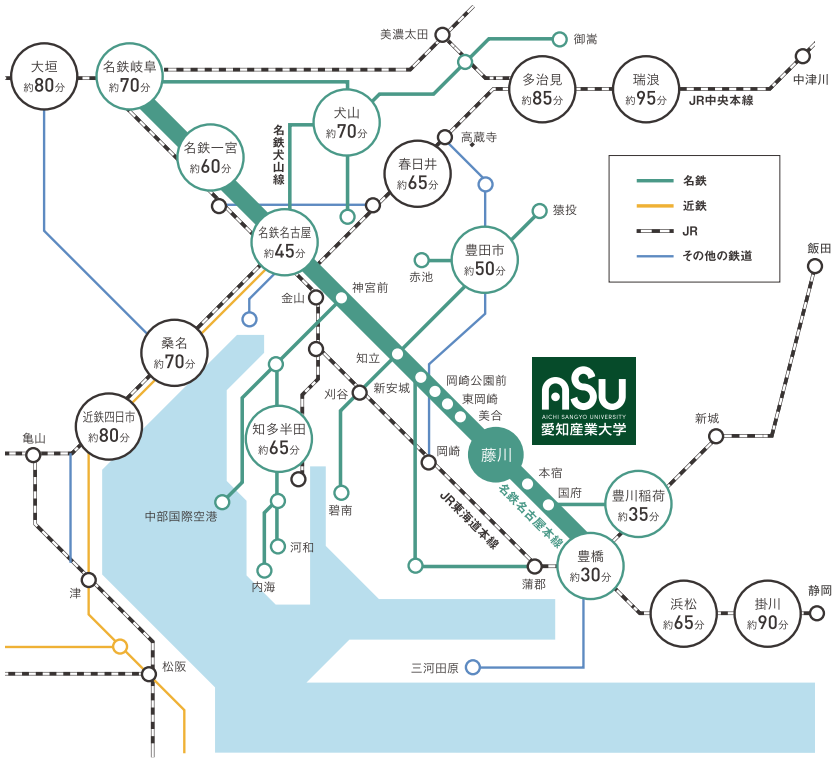
1時限	9:30～11:00
2時限	11:10～12:40
3時限	13:40～15:10
4時限	15:20～16:50
5時限	17:00～18:30



アクセス [愛知産業大学 岡崎キャンパス]

スクールバス乗り場

名鉄名古屋本線「藤川」駅下車、
専用スクールバス乗り場より
スクールバスで3分



※名鉄特急は追加料金なし(一般席)で乗車できます。



自動車利用案内

- 名古屋方面からの場合
東名高速「岡崎IC」から国道1号線を東へ10分
三河高校入口信号左折3分
- 豊橋方面からの場合
東名高速「音羽蒲郡IC」から国道1号線を西へ15分
三河高校入口信号右折3分
- 新東名高速ご利用の場合
新東名高速「岡崎東IC」から国道473号線を南西へ5分
国道1号線に入り西へ8分、三河高校入口信号右折3分

自動車通学OK!

学生用駐車場を完備していますので、大学の許可を受けることにより、マイカー通学ができます。

愛知産業大学

〒444-0005 愛知県岡崎市岡町原山12-5

代表	TEL 0564-48-4511	FAX 0564-48-7756
入試広報課	TEL 0564-48-4804	FAX 0564-48-4541
MAIL	kouhou@asu.ac.jp	